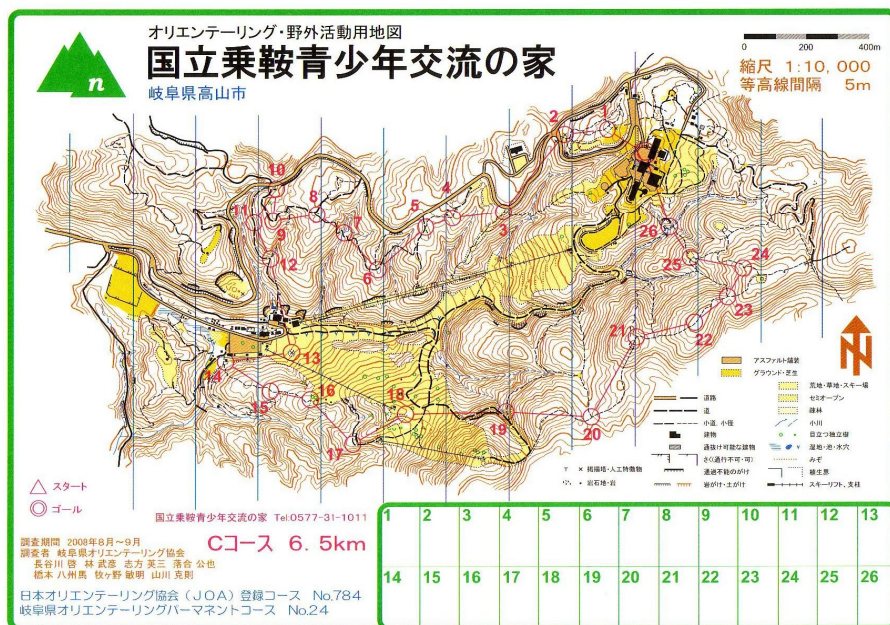


スタート地点で熊鈴を渡され、熊と遭遇した際の心得も教えられた上で巡るドキドキのコース

「国立乗鞍青少年交流の家 C」コース
岐阜県 No.24
JOA 公認 No.784 6.5km 26 ポスト



スタート地点の国立乗鞍青少年交流の家



標高 1500m の爽やかコース

2008 年 11 月に誕生した「国立乗鞍青少年交流の家」コースを巡ります。乗鞍というと長野県のイメージが強いのですが、「乗鞍岳」というのは岐阜県と長野県にまたがる剣ヶ峰(標高 3,026m)を主峰とする 23 の山々の総称で、青少年交流の家があるのは西麓にあたる岐阜県側の高山市。今回のアクセスは、名古屋を経由して JR 高山本線で北上するのではなく、松本からレンタカーでの峠越えを選択します。

3 連休の初日とあって混み合う特急あずさで松本駅に降り立ち、ニッポンレンタカーで車を借りて国道 158 号線を西に向かいます。松本電鉄上高地線と並走する平野部から梓湖から連なる稲核ダム、水殿ダムに差しかかると周囲は一気に深山ムード。95 年に飛騨高山コースを回った際には大型バスで大渋滞が発生させていた県境の安房峠も、長野五輪に向けた計画の前倒しで 97 年に開通した安房峠道路のおかげで、わずか 5 分で通過します。カーナビでは高山市街まで下るルートが推奨されるなか、森林基幹道駄吉線という林道をたどって大幅にショートカット。お昼過ぎには現地に着きます。公共交通機関の定期運行はなく、予約制のデマンド方式で高山からのバスが運行されています。

海拔 1,510m の高地にあり、平地ではまだまだ 30℃ 近い気温の日が続くなか、交流の家に設置されたデジタル温度計は 19℃ の表示。曇天ながら爽やかな風に包まれます。事前に連絡をしていたこともあり、事務所を訪れるとすっかり歓迎ムードで嬉しくなります。ABC3 コースそれぞれに独立した地図が用意されているうえ、コース図は全て印刷済み。さらに、パーマナントコースに組み込まれていないポストも含めた全 55 ポストが印刷され、場所の名称の入った地図もあり、完璧な管理体制です。



気温 19℃ 空気もさわやか

熊の巣窟

そして、さらにもう 1 枚地図を見せられるのですが…。そこに記載されたものを認めた途端、すっかり盛り上がった気分が瞬時に凍りつきます。熊出没…。この夏に熊が目撃されたという

個所に×印が記載されており、直近では 8 月の日付です。今日回る予定の C コースのまさに前半部なのです。事務所の方の言葉を借りれば「このあたりは熊の巣窟」とのこと。過去、熊の出没で廃止や休止を余儀なくされたコースがあるなか、ここでは「この辺で熊が出るなんて当たり前」といった感じ。昨年の熊出没個所を記された地図にはさらに多くの×印。にもかかわらず、学生も利用する研修施設でありながら、コースを閉鎖しようという考えは皆無の様子です。にこにこ軽い感じで説明され、本当に大丈夫なの? と思っていると、やおら手渡されたのは mont-bell の熊鈴。「持っていなければこれ付けて行ってください」。スタート地点で熊鈴を渡されたうえで歩き始める経験は過去 30 年遡っても、さすがにありません。熊と遭遇した際の心得も教えられ、13 時 14 分にスタートします。

C コースは 6.5km でポスト数は 26。マップエリアほぼ全域を巡る本格的な山岳コースです。AB コースは翌日に回し、C コースをまわりつつ、公認コース以外のスコア OL 用のポストも探す計画です。

最初のポストは ABC3 コース共通の第 1 ポスト。「躍動」と名付けられた石像が置かれた丘の上に設置されています。スタートからわずか 2 分後に発見。こ

の後も同様にテンポよく次々とポストをチェックしていきます。ポストには No. 1～55 までのナンバリングと 2 つのアルファベットを組み合わせた記号が記されています。エリアを A～D の 4 つのゾーンに区切り、1 つめの記号はゾーンと連動した ABCD のいずれかが当てられています。



頼みの綱の熊鈴

丘を下ると「国立乗鞍青少年交流の家」の看板の下でちょこんと設置された第 2 ポストを確認。そして熊出没エリアへと進みます。

ポツポツと雨が降り始めるなか、ちりんちりとナップザックにつけた熊鈴を鳴らしながら、主要道路を下って行きます。8 月に目撃されたという熊は道路を渡っている最中だったそうで、油断はできません。道の曲がりの小道の入口で第 3 ポストを認め、さらに道路を進みます。

巣窟と指摘されたエリアにある第 4～8 ポストまでは、花木の広場からよく整備された遊歩道が続き、適度なアップダウンに心地よい汗をかき始める区間でもあります。幸い熊の気配すら感じることなく通過し、トイレ脇にある第 8 ポストに無事到着。ここから第 9 ポストへ向かう前に公認コース外の No. 32 ポストを出戻りでチェックします。

道の曲がりの第 9 ポスト、林道の入口の分岐にある第 10 ポストを経て、南に下る小道の途中で 11、12 ポストを確認すると、飛騨高山スキー場のゲレンデが視界に広がります。そのゲレンデの真っ只中にある小梨神社馬頭観音の

第 13 ポストとキャンプ施設脇にある第 14 ポストを通過後、再び寄り道をしてコース最西端の No. 55, 54, 53 を目指します。雨天の秋のスキー場周辺は訪れる人もなく、まるで時間が止まったかのよう。静まり返った林の中を歩き、ワラビ平を越えてロスなく 3 つのポストを拾います。



トイレ脇に立つ第 8 ポスト

第 14 ポストまで戻り、ここからは尾根道を登り詰めます。第 15、16 ポストを過ぎると、スキー場と再会。と、この時交流の家から携帯に着信があり、応答するとこれからの雨の予報を丁寧に伝えてくれました。これからの 1 時間は雨が強くなる…。スキー場ながら周囲は霧に煙り、確かに雨足も強まっています。心配してくれている言葉に、あまりひどくなったら中止する旨を告げ、意を決して歩き始めます。

繁茂した草原を脱出して第 17 ポストまでたどり着くのがこのコースの最難関ポイント。もみの木ペアリフトの降り場近くで第 18 ポストを見つけ、No. 45 ポストと分岐の第 19 ポストを確認したのち、このコース最高地点のカブト山にある No. 44 ポストに向かいます。6.5km というコースながらあちこち寄り道しながら歩いていることや、アップダウンの繰り返しで、この辺りでは疲労のピークを迎えています。重い足を引きずりながらやっとの思いでピークを極めてポストをチェック。スコア OL の得点は最高の 30 点が与えられています。



カブト山山頂の No. 44 ポスト

ここから尾根筋をたどる第 20～24 ポストの間にはピークが 5 つ。第 20 ポストから寄り道して白樺平にある No. 39, 41, 40 と隣接するコース外ポス

トを確認したこともあり、両足に溜まる乳酸の量は半端ではありません。それでも久しぶりにまっさらな未踏破コースを歩いているという高揚感から不思議と力が湧き、御岳見晴台から第 24 ポストへ下らずに、最後の寄り道で日影峠の No. 22 ポストへ往復します。

あとは下りを残すのみ、軽い気持ちでオープンスペースの分岐の野。第 25 ポストを過ぎ、最終ポストの第 26 ポストのある沢まで来ると、目の前には上り坂。最後はまた上りかと少々閉口しながらも小道を上ると、交流の家の裏側に抜け出し、16 時 58 分、所要 3 時間 44 分でのゴールとなりました。

奥飛騨慕情

事務所を訪れると、雨でずぶ濡れになった私を所員の方々は暖かく出迎えてくれます。天気予報を知らせてくれたことや熊鈴を貸してくれた厚意に感謝を告げ、明日 10 時の再訪を約束して交流の家をあとにしました。

この日は高山の駅前に宿を取り、飛騨牛のにぎりを出すことで旅行ガイドにも掲載される「みこと寿司」を訪ねます。ご夫婦で経営している家庭的なお店で、8 年前に家族旅行でお邪魔して以来。その後 2 年ほど手紙のやりとりはしていたものの、さすがに覚えていないだろうと思いつつ扉を開けて中に入ると、「あっ」という奥さんの表情を見つけひと安心。8 年前の天気まで覚えてくださっている奥さんの記憶力に感心しつつ、夜 11 時から 3 時間ほど長居をして、懐かしい話に花を咲かせたのでした。

翌日は一転して快晴に恵まれ、高原ムード満点の AB コースを堪能しました。

(2011 年 9 月 17 日 踏破)

(大高竜亮)